

「姫路駅での思い出」

香西 春美 （８５歳）

「新聞読んでお父様。涙を拭いておっしゃった。あの１２月８日の日、太平洋の真中で大きな手柄をたてたのは、若い９人の勇士です。」この詩には曲がついています。大人達から聞いて覚えました。９人の勇士は鹿児島県の知覧からハワイの真珠湾（パールハーバー）に向かって飛び立って行ったのです。真珠湾に停泊していたアメリカの軍艦めがけて突げき、この事件が、第二次世界大戦勃発の契機となったのです。十数年前にハワイ旅行した時にパールハーバーで当時のままの軍艦を見ました。胸が熱くなり、涙した事しっかり覚えています。戦中、兄３人は出征、長兄は陸軍で今の北朝鮮の平壤に駐屯。次兄は中国派遣軍に。海軍の３兄は南方に派遣される事になり列車で横須賀から呉の軍港に向かう途中、兵庫県の姫路駅に停車するので、是非逢いたいと電報が県内の実家に届きました。１９４４年８月。両親と私達姉妹はホームで列車が来るのを待っていました。窓から身を乗り出して手を振る兄の姿が見え、私達は走り寄り、わずか１５分ほどの再会を喜びました。列車はゆっくり走り出し、母は兄の名前を叫びながらホームの端まで走って行きました。あの時の母の姿を一生忘れないです。終戦後、兄３人が順に無事生還。母は玄関でしっかり抱きしめ鳴咽。ひたすら無事を祈った両親の強い心に深く畏敬の念を抱いています。